

令和元年産田植え始まる

～「青天の霹靂（へきれき）」特別栽培米3年目～

今年で3年目となる県ブランド米「青天の霹靂」の令和元年産特別栽培米の田植え作業が始まった。

津軽みらい農協特A米プレミアム研究会の工藤憲男会長は5月16日、草丈15センチ程度、葉齢3葉程度の生育順調な苗を植えた。工藤憲男さんは「基本に忠実な管理で今年もおいしい米を栽培したい。消費者の皆さんは期待して、出来秋を楽しみに待ってほしい」と話した。

県では、初期生育確保のため温暖な日に田植えを行うことや浅水管理を基本とし、寒い日は稲が冠水しない程度の深水管理で苗を保温するようよう呼びかけている。

同品種の特別栽培米は、米穀店など取引先からの要望に対応し、中南地域では同研究会19人と田舎館村の「稲華会」4人が約47畝で作付をした。



田植えを行った後継者の工藤憲児さん



田植えの準備作業



板柳地区 りんご現地講習会



田舎館地区 りんご青空教室

摘果を学び高品質なりんごを栽培

～りんご栽培講習会～

JA管内各地で高品質なりんごの生産のため、栽培講習会が開かれた。

5月28日、板柳町の園地でりんご現地講習会が行われ、生産者ら約90人が参加し、摘果のポイントを学んだ。

県西北農業普及振興室の鈴木均主幹が講師を務め、生育状況や摘果の強さ（残す果実）と時期の目安、摘果時の留意点について説明。黒星病の発生が懸念されるので、発病葉や発病果実は見つけたい摘み取り、二次感染の防止に努めるよう呼び掛けた。

県りんご剪定士4人が摘果作業の実演を行い、高品質なりんごを栽培するポイントや注意点を説明した。参加した生産者は真剣に学び今後の農作業の参考にしていた。

また同日、平賀地区と田舎館地区でりんご青空教室が行われ、参加した生産者は生育状況や今後の栽培管理について確認した。